

## 大村敏朗\* 静岡県の帰化植物新報知

T. OHMURA : On the newly naturalized plants in the Sizuoka Prefect.

1) アメリカアゼナ *Lindernia dubia* (L.) PENN.

沼津西高校の生徒，志村美保君が1965年7月御殿場市内で，又同校勝又香代子君が同年9月沼津市千本の荒地で各々採集した。標本は同校教諭，高橋真弓氏から提供されたものである。(Fig. 1, Fig. 2)

2) ドクゼリモドキ (浅井, 1961) *Ammi majus* L.

1965年9月，清水市阜頭の臨港線際で採集。其の後1967年6月，清水南高校教諭，尾上元氏も採集されている。特徴のはっきりしたヨーロッパ原産の2年草である。植研42巻8号に浅井，大橋両氏の立派な写真と解説が掲載されている。

3) ヨツバハコベ (村田, 1953) 一名クルマバノミノフスマ (檜山, 1954) *Polycarpon tetraphyllum* (L.) L.

1967年6日，清水港阜頭で前記，尾上元氏の採集。一面に群生していたが，再度同所を訪ずれたところ，除草剤の散布で絶滅したとの事である。(Fig. 3, Fig. 4)

4) タリホノアオゲイトウ (長田, 1967) *Amaranthus palmeri* WATS.

1963年7月，清水港の阜頭付近で多数みられたが花期前であったので同定出来ず，そのまゝになっていた。その後毎年の様に発生していたが，資料不足の為手がつかなかった。現在でも相当見うけられる。「帰化植物図

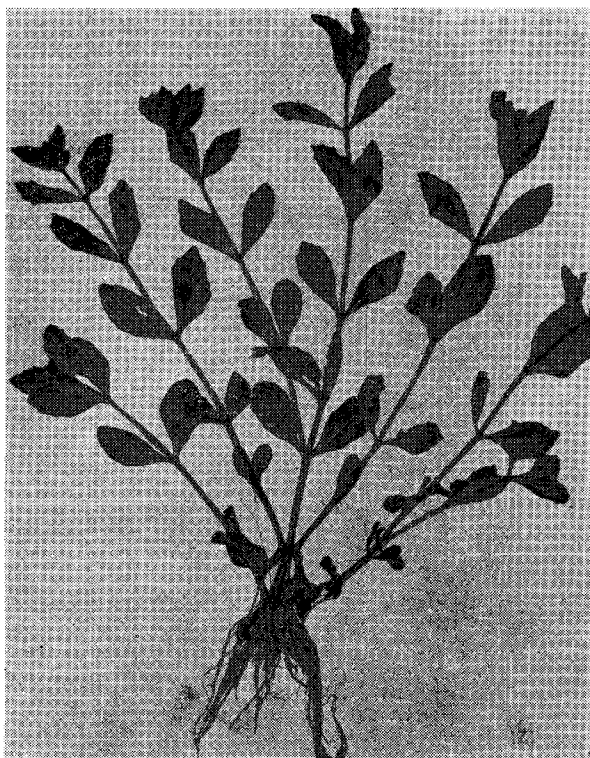


Fig.1 アメリカアゼナ *Lindernia dubia* (L.) PENN. ×0.6  
御殿場市内産

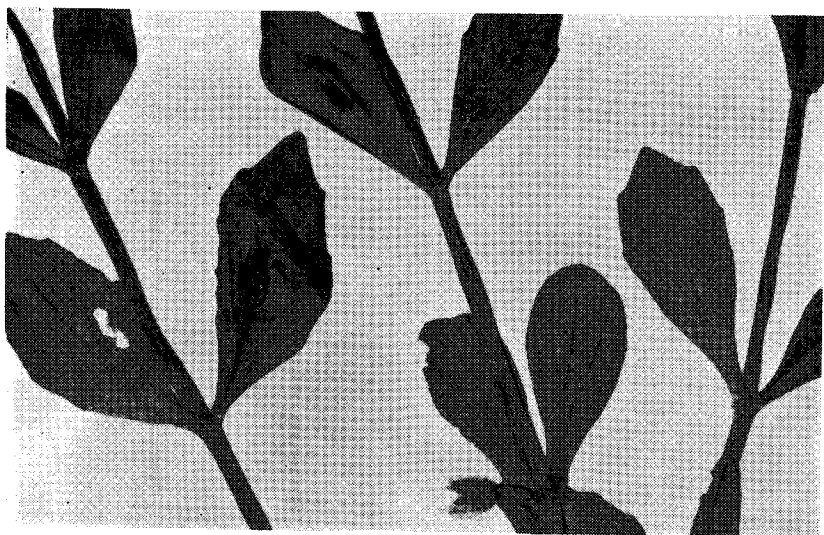


Fig. 2 アメリカゼナ *Lindernia dubia* (L.) PENN.  $\times 1.8$  御殿場市内産

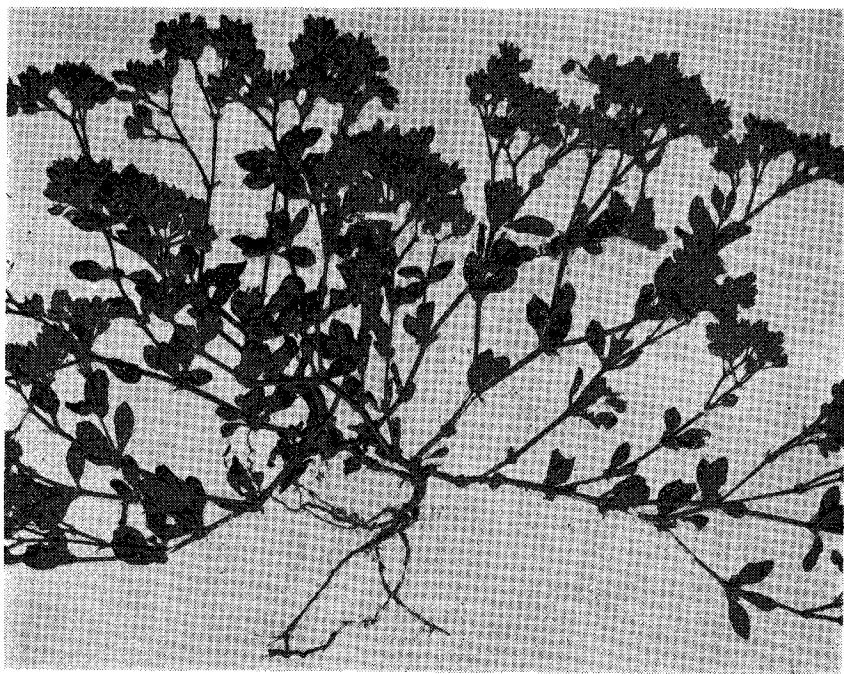


Fig. 3 ヨツバハコベ *Polycarpon tetraphyllum* (L.) L.  $\times 1$  清水港産

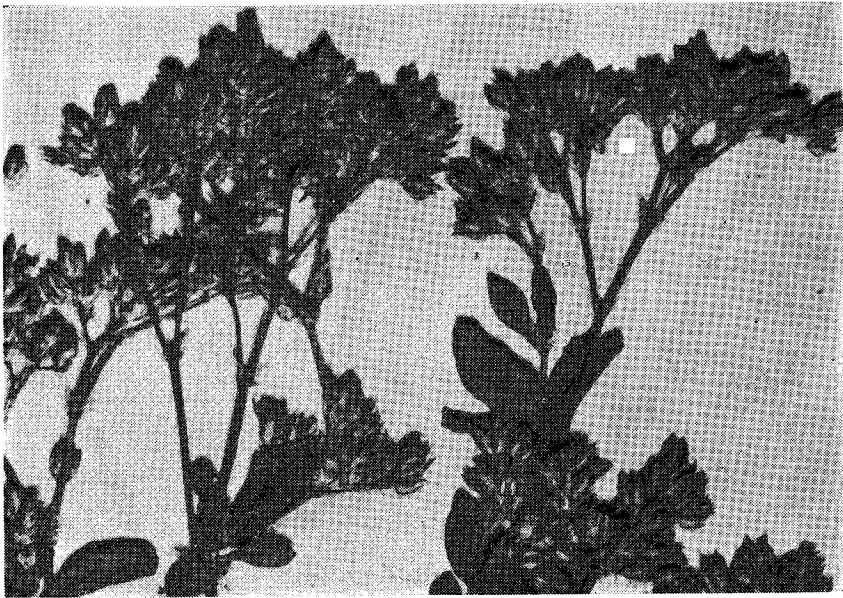


Fig. 4 ヨツバハコベ *Polycarpon tetraphyllum* (L.) L. ×2.6 清水港産

譜」(1967)に長田氏の立派な図と詳細な解説文がある。雌雄異株で花穂の状態が違うので、別種のように見える事は同氏のいわれる通りである。

尾上氏は清水市折戸で雄株のみみつけられた。(Fig. 5, Fig. 6, Fig. 7)

5) マルバアメリカアサガオ (上田, 1959) *Ipomoea hederacea* JACQ. var. *integuscula* A. GRAY.

アメリカアサガオの変種。1961年9月清水市内の港に近い荒地にアメリカアサガオと混生していた、蔓は左巻である。阜頭には毎年の様にみられる。当清水市のものは逸出ではなく、完全な帰化である。(Fig. 8)

6) オキナアサガオ (浅井, 1954) *Jacquemontia tamnifolia* CHOISY.

1967年9月、前記、尾上元氏が清水港阜頭付近でみつけられた。蔓は左巻で、花は梗の上に集まって咲き径1 cm 位で青色で美しい。熱帯アメリカ原産。同所にはこの他、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、マメアサガオ、マルバアサガオが混生し研をきそっている。(Fig.9)

7) オオホウキギク *Aster exilis* ELL.

ホウキギクの近似種、前記尾上氏に依頼して当地方における帰化の有無を調査して貰ったところ、予想通り広範囲に分布している事が判明した。しかし最近になって侵入して来たものと思われる。目下のところ清水港周辺や、静岡市全域に普通である。特に港付近や、宅地造成の為埋土をした荒地に優先して侵入する傾向が見られる。又ホウキギクと混生もするが、住み別けている場合も多い。県下全域に広範囲に分布している可能性があ

る。(Fig. 10)

8) **ブタナ** (北村, 1934) タンポポモドキ (館脇, 1933) *Hypochoeris radicata* L.

1967年7月, 清水市, 折戸, 清水港線, 折戸駅構内で尾上元氏が採集された。個体数は

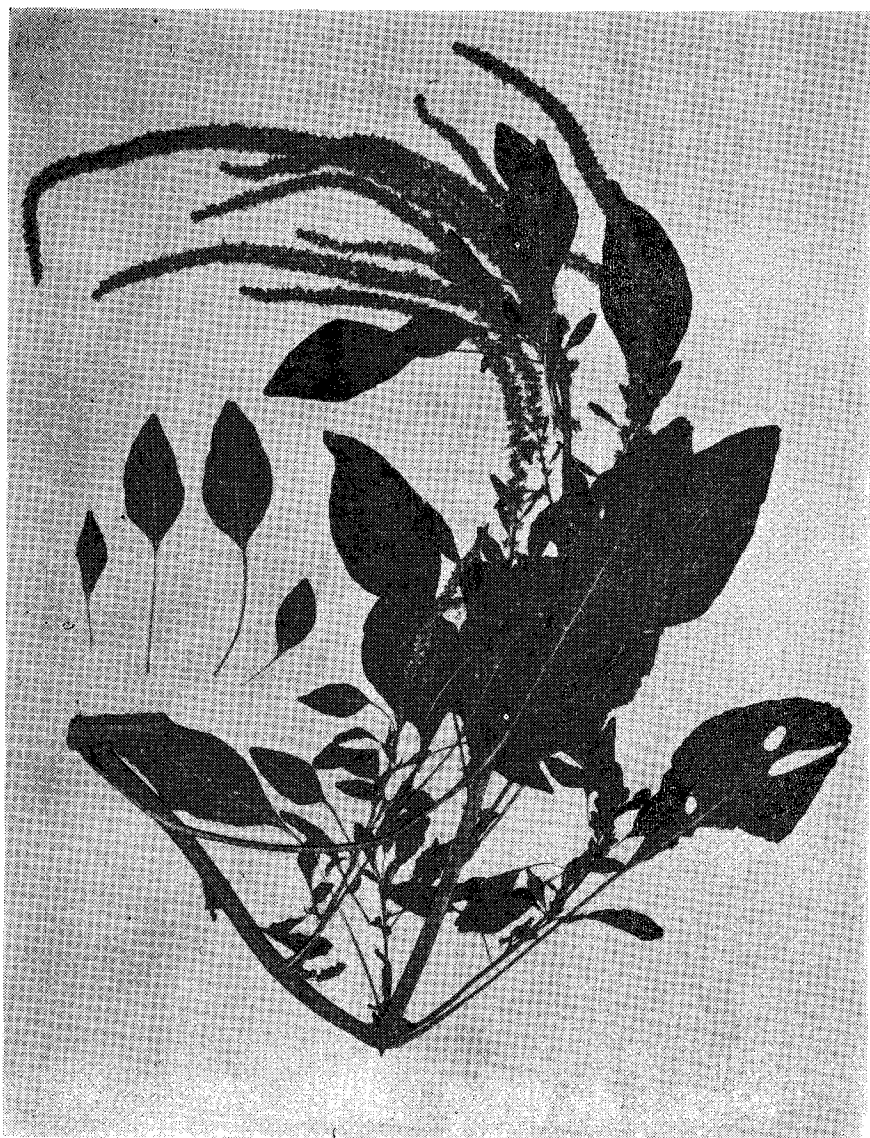


Fig. 5 タリホノアオゲイトウ *Amaranthus palmeri* Wats.  $\times 0.4$  ♂株, 清水港産



Fig. 6 タリホノアオゲイトウ *Amaranthus palmeri* Wats.  $\times 0.4$  ♀株, 清水港産





Fig. 7 タリホノアオゲイトウ *Amaranthus palmeri* WATS.  $\times 3$  ♀株, 清水港産



Fig. 8 マルバアメリカアサガオ *Ipomoea hederacea* JACQ. var. *integrusucula* A. GRAY. 清水港産



Fig. 9 オキナアサガオ *Jacquemontia tamnifolia* CHOISY.  $\times 0.5$  清水港産

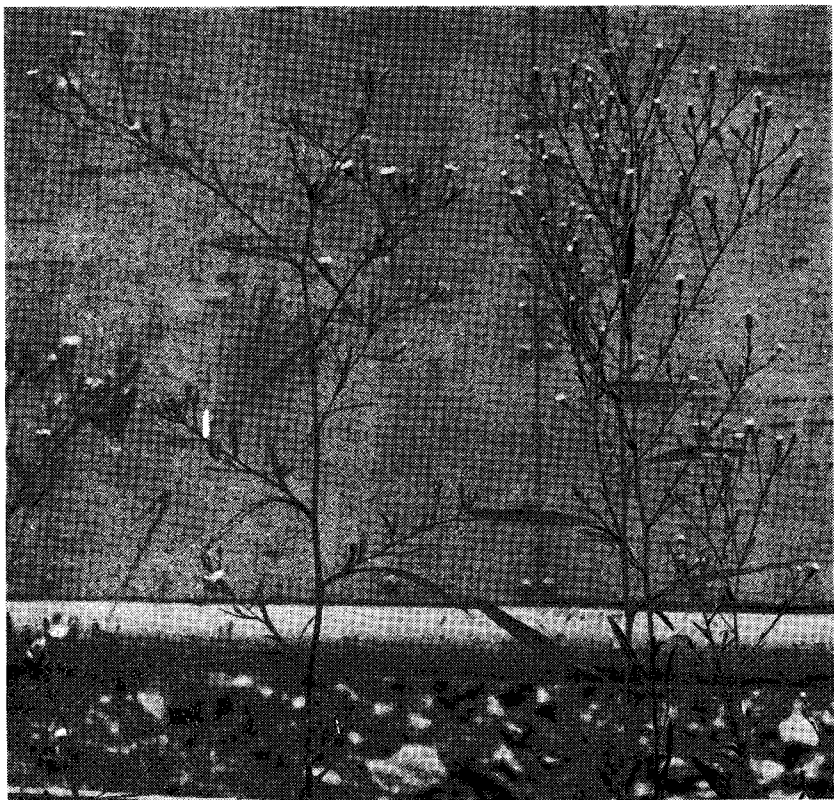
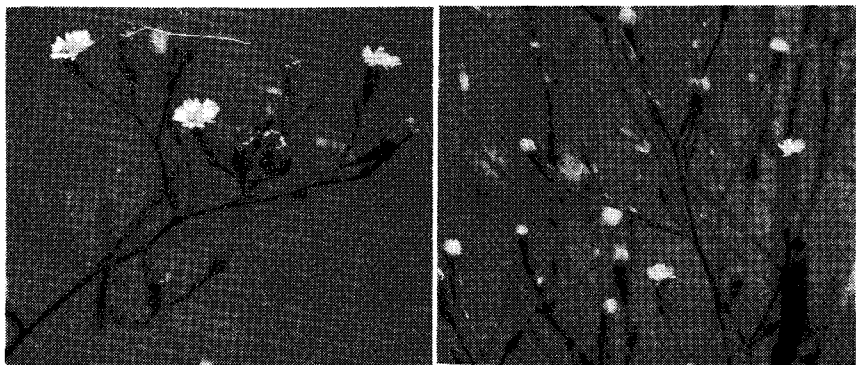


Fig. 10 オオホウキギク（左）とホウキギク（右）静岡市，上足洗産  
花序の分岐の角度や頭状花の大きさの違いがよくわかる。



オオホウキギク（左）とホウキギク（右） 静岡市上足洗産



少ない。今迄各地から報ぜられているが、ごく最近になって本県に見出された事は、帰化植物の多い静岡県としては珍しい。和名ブタナは、フランス名 *Salade-de-porc* から名づけられた。尚書物によっては属名に *Hypochaeris* が使われている事もあるが、これはミスプリントの慣用との事であって、*Hypochoeris* の方が正しい。

---